



学校だより

令和2年3月24日
3月号
調布市立第一小学校
校長 川島 隆宏

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> TEL042(481)7636

どのような状況においても相手を尊重できる人に

校長 川島 隆宏

平成31年度で始まった本年度も残すところ明日の卒業式のみとなりました。保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

現在、「新型コロナウイルス」に関する対応では、国や東京都の方針をもとに対応しているところですが、この約3週間、学校が休校となり、子供たちはもとより、保護者の皆様にも御心配と御苦勞をおかけしていることをお詫びします。

今日の修了式は、昨日まで寂しかった学校が、久しぶりに登校してきたたくさんの子供たちの笑顔で見違えるように明るくなり、さながら、桜の花で満開になったようでした。やはり、学校は子供がいてはじめて学校なんだと、あらためて感じたところです。明日の卒業式ですが、既に御案内のように、児童、保護者、教職員のみ時間を短くした形での実施となります。寂しい感は否めませんが、心を込めて卒業生を送り出してあげたいと思っています。

さて、先日、ある新聞に「五輪に託した『心の教育』」という記事が載っていました。近代五輪の礎を築いたフランスの教育者ピエール・クーベルタンの想いに触れたもので、「オリンピックで重要なことは、勝つことではなく、参加することである。」「スポーツで結ばれた若者が世界中から4年ごとに集まれば、戦争はなくなる。」「スポーツが公平な心と身分を超えて相手を尊重する精神を養う。」といった彼のオリンピック復興に込めた想いを紹介したものでした。

これら言葉を読んだとき、思い出されたのは、2018年に、韓国、平昌で行われた冬季オリンピックにおいて、スピードスケート女子500メートルで金メダルを獲得した小平奈緒選手の「しーっ！」のポーズでした。最後から2つ前のレースで自分が出したオリンピック記録のタイムにどよめいている観衆に対して、「このあと滑る選手がいます。集中できなくなるから、静かにしてください！」と、訴えかける小平選手の姿に胸が熱くなりました。その後、滑る韓国の李選手は、当時、小平選手の最大のライバルであり、これまでのオリンピックでは勝てなかった相手でした。小平選手は「静かにして！この後滑る選手がいるんです！」最大のライバルと最良の状態で勝負したいという想いがあったのでしょうか。ぎりぎりの戦いの中でも相手のことを気遣える気持ちに、一流のアスリートとしてのプライドと品格を感じました。

今回、新型コロナウイルスの流行により、人間の様々な側面（素晴らしい面、醜い面）が見られました。しかし、今日登校してきた子供たちの笑顔は、未来への希望と前に向かって進もうとするエネルギーであふれていました。世の中が元気を失いかけている今こそ、小平選手の「どんな状況においても、お互いを尊重する」、クーベルタン男爵の「スポーツが公平な心と身分を超えて相手を尊重する精神を養う。」ことの大切さと素晴らしさをあらためて子供たちに伝えるとともに、これからの教育活動に活かしていきたいと思えます。

令和2年度は、まだ、新型コロナウイルスによる影響が残る中でのスタートになると予想されますが、第一小学校では、子供たちに「生きる力」を育てていくため、教育活動の充実に向け全教職員で取り組んでいきます。来年度も、保護者の皆様をはじめ、地域、関係機関の皆様には御理解、御協力いただきますようお願い申し上げます。



TOKYO 2020

